

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 11	公益目的事業 17
主査名	小早川 悟 ・ 日本大学理工学部 教授	
研究テーマ	東京都市圏における物資流動データを用いた都市内配送実態の分析※	
研究の目的： 本プロジェクトでは、端末物流や都市内配送に着目して、中型および小型貨物車のプローブデータ、端末物流実態調査データ、路上駐車実態調査データの3つのデータを用いて、どのような地区で端末物流の需要が発生しているのかを広域的に把握することを目的としている。 研究の経過（4月～9月）： 中型および小型貨物車のプローブデータについては、平成27年度に日本交通政策研究会のプロジェクトで実施した貨物車のODデータをさらに分析を進めることで、中型車および小型貨物車のトリップエンドが集中する地区の抽出方法の検討を行っている。その結果、中型貨物車（4t車）と小型貨物車（2t車）では、配送している地区や配送距離に大きな違いがあることがわかってきた。また、端末物流実態調査のデータ分析では、第5回東京都市圏物資流動調査の端末物流実態調査が実施された12地区のデータを用いて、地区毎の端末物流の特徴を分析することを試みている。こちらの分析では、貨物車の路上駐車時間の傾向からクラスター分析を行い、調査対象地区のタイプ分けを試みている。しかしながら、現在のところ地区毎の駐車特性のばらつきが大きく分類が困難な状況にあり、分析方法を再検討中である。 下期へ向けて（課題等）： 貨物車のプローブデータの分析においては、着地別の出発地の分析を行う予定である。これにより、それぞれの地域に流入してくる貨物車がどのような地区から訪れているかを分析し、貨物車のODデータの活用方法と地区毎の貨物車の流動を把握し、地区特性にあった貨物車対策の検討を行いたいと考えている。さらに、12地区における端末物流実態調査のデータの分析では、地区内を幹線道路沿線、商店街、大規模店舗周辺等にさらに細かく分けて分析を行うことで、各地区内における貨物車駐車需要の特性を把握していく予定である。 研究メンバー（敬称略）： 小早川悟（主査・日本大学） 高田邦道（日本大学） 木戸伴雄（交通コラムニスト） 佐野可寸志（長岡技術科学大学） 長田哲平（宇都宮大学） 稲垣具志（日本大学） 二木敬（国土交通省） 淵崎勇（国土交通省） 椎名啓雄（警視庁交通部） 大島弘明（日通総合研究所） 西原相五（TRプランニング） 南部繁樹（トラフィックプラス） 後岡寿成（日本工営中央研究所） 樋口恵一（豊田都市交通研究所）		